

麦の品質・収量確保のため 播種前の3つの対策に取り組み、適期に播種しましょう

令和5年10月
東讃農業改良普及センター
東讃農業改良普及協議会

【麦の播種適期】

- ① 品種固有の能力が発揮され、品質・収量ともに高くなること、
- ② 梅雨時期の雨害を最小限にとどめること、
- ③ 土壌が適湿な条件下で播種作業を行うこと等を考慮して決めています。

※播種時に土壌が過湿で練り播きすると、出芽、生育不良になります。そのような時は、時期を遅らせて、適度に乾いてから播種しましょう。

品種	播種早限	播種適期	播種晚限
さめきの夢2009	11/10	11/15～25	12/5
イチバンボシ	11/10	11/15～25	12/20
はるか二条	11/20	11/25～12/5	— (※)
はるみずき	11/20	11/25～12/10	12/20

※ 播種実績がなく、現在設定していない。

【注意】
5年産麦とは異なる品種に切り替えるほ場で、前作に水稲を作付けしていない場合は、前年の麦(落穂)が出芽する可能性があります。そのため、10月下旬までに10cm程度の深さに耕起し、前年の麦が出芽した時に、雑草と一緒に非選択性除草剤を散布して枯らしておきましょう。

【播種前の3つの対策】

(その1) 排水対策

播種前の早い段階で溝掘機や管理機を用いて、ほ場周辺や3～5m間隔で排水溝(明きよ)を設置し、降雨の際、すみやかに排水できるようにしましょう。



ヨケを作って周囲からの水の流入を防ぎましょう

排水溝は落水口につなげましょう



(その2) 土壌酸性障害対策

麦の適正な土壌pHは6.0～6.5。長期間、水稲を作付けせず、麦を連作しているほ場では、pHが低下し、酸性障害が発生することがあります。播種前に苦土石灰等で酸度矯正しましょう。

資材	施用量
粒状苦土石灰	60～100kg/10a
・pHを0.5上げるためには、約100kg/10a施用する。 ・耕起前、または耕起時に施用する。	

【酸性障害の症状】

葉の黄化、葉枯れ、草丈が低い、分げつが極端に少ない等
↓
品質低下、減収



(その3) 雑草対策

ほ場内に雑草が発生している(古草が残っている)場合には、播種前に非選択性除草剤を散布し、枯らしておきましょう。

雑草の茎葉全体に均一にかかるように散布！

薬 剤	対象雑草	使用時期/回数	10a当たり使用量
プリグロックスL	一年生雑草	播種前または播種後出芽前 /4回以内	600～1,000mℓ (水100～150ℓ)
バスタ液剤	一年生雑草	播種前または播種後出芽前(雑草生育期) /1回	300～500mℓ (水100～150ℓ)
ラウンドアップ マックスロード	一年生雑草及び 多年生イネ科雑草	耕起前または播種後出芽前(雑草生育期) /3回以内	200～500mℓ (水50～100ℓ)